

県北 どらくろ本

第23号 2018年2月1日（毎月1日発行）

県北新名所案内②

ほのぼのはんこで「自己紹介」

消しゴムはんここと手作り雑貨の店「香面堂」こうめんどう



なっている。

消しゴムはんこは、多くのプロが活躍する工芸&アートの世界だ。版画用に加工されたプラスチックゴムが販売されている。田村さんが使っているのはハガキサイズ。それを作りたいはんこのサイズにカットして使用する。田村さんは彫刻刀の三角刀一本だけで彫り上げる。

文房具の消しゴムよりは少しかたくて、ゴム版よりほはるかに削りやすい。消しゴムではんこを作る、いや、創る理由がちゃんとする。ちなみに、版画用の消しゴムは、消しゴムとして使ってもよく消えるそうだ。

田村さんが消しゴムはんこに出会ったのは、大学生のときに見たテレビ番組。興味をひかれて、年賀状の版画を彫ってみた。これが好評で、はんこ作りにはまった。プレゼントした友人の笑顔がまた活力になる。名称やさまざまなイラストの要望にこたえているうちに技術が向上、複雑なデザインも刻めるようになった。すべて独学だ。

口コミで評判が広がり、依頼を受けるようになった。一口ではないからと最初は謝礼

を固辞していたが、それだと頼みづらいと言われて考えが変わった。こんなに喜んでもらえるなら、プロを目指してみようか。

子どもの頃は図画が苦手だった。今でもうまいとは思っていない。だから、依頼主から趣味やペットなどの興味のあることを聞き出して、下絵に時間をかける。「気に入ってもらえて初めて作品になる」と田村さん。手作りの、世界でたった一つの自分だけのはんこ。ほのぼのとしたやさしさが伝わってくる。

そうした活動がマスコミで紹介され、実演販売や作品展、消しゴムはんこ教室などの声がかかるようになった。「いつでも気楽に会いに来てもらえる場所があれば」と、平成十一年に「香面堂」をオープンした。父親の実家の裏手にある観音堂の名前が香面堂。備後国三上郡三十三か所霊場の第三十番札所だったという文献がある。

消しゴムはんこの製作依頼は途絶えることがない。結婚式の引き出物では、新郎新婦の感謝の気持ちを、構成が異なる約八十のはんこで表現した。小学校時代の恩師から、

庄原市西本町の住宅地に、かわいいうちが好きな方にお薦めの店がある。約七十平方メートルの店の半分に、布製の手提げ袋やポーチ、陶器の置物などの手作り雑貨が並べ

られてる。店主の田村かおりさん（37歳）が選んだ委託販売品で、個性豊かな商品ばかりだ。そして、店舗の左奥半分が、消しゴムはんこの体験教室などの工房スペースに

教室の本に押す蔵書印を頼まれたこともある。制作したはんこのすべてに想い出がある。

昨年、庄原市で春と秋に開催される「さとやまオープンガーデン」で、庭巡りの記念に押すはんこを二十六個制作、すべて各庭園オリジナルの労作。今年の春にはまた、御朱印帳の手拭いを手に、庭巡りを楽しむ人たちの姿が見られるはずだ。

はんこ教室は、彫刻刀を使用するので、小学校高学年からが対象。本格的な千円コースとお手軽な五百円コースがあり、完全予約制。一度の講習で、一人で消しゴムはんこが作れるようになるという。地元で開催される様々なイベントでも、香面堂が来店するはんこ教室は大人気だ。

精神的につらかった時期も、消しゴムはんこに元気をもらった。父親の定年退職に伴って、広島市内から父親の実家のある庄原市に移住した時も、コミュニケーションのきっかけを作ってくれた。

はんこを手にした人が笑顔になって、どんどん使ってもらい、それを見た人も笑顔になる。みんなに喜んでもらえる作品を、これからも作っていききたいと思っている。

香面堂 ☎ 0824(72) 1592
営業時間…11時～18時
定休日…月・火曜日、第2・4日曜日

三次市重要文化財「往来本」デジタル化記念講演会

おうらいもの

「往来物の世界」

—三次市往来本の価値と位置—

往来本(往来物)は、平安時代末期から大正時代までの約千年間、日本人が使い続けてきた読み書き教材の総称です。江戸時代には主に手習塾(寺子屋)で用いられ、出版物だけでも約1万種、写本を含めると優に数万種に及ぶ膨大かつ多彩な往来本が誕生しました。

三次市には、平井右平氏(1883-1950)の寄贈による珠玉の往来本612点が大切に保管されています。これは、平井氏が夢見た図書館設立の原点となりました。以来65年を経過した現在の三次市立図書館の願いは、日本有数の往来物コレクションを広く多くの皆様にご活用いただくことです。このたび、約200点をデジタル公開し全国に発信していく記念に、標記の講演会を行います。多数のご参加をお待ちしています。

※三次市の往来本は、まず何よりも稀覯書中心のコレクションであることが最大の特長で、現存唯一の往来本も多く含まれます。特に、全国各地の地誌・物産等を紹介した「地理科往来」や、大判の色刷り絵題簽が独特な十辺舎一九作の「歴史科往来(伝記型)」、また、「商売往来」の最古本(元禄7年本)を始めとする「産業科往来」などは類書も豊富に揃っています。



- 講師 小泉吉永氏(法政大学講師・往来物研究家)
- 日時 2月25日(日)午後1時開場。
午後1時30分開会～3時終了。
- 場所 三次市民ホール「きりり」サロンホール
- 対象 三次市民、往来本に関心のある方。
定員100名(参加費無料)
- 申込み 現在受付中、整理券配布。
遠方の方は電話受付可。
- 主催 三次市立図書館(Tel0824-62-2639)
三次市十日市東3丁目14番1号

司馬遼太郎『峠』

時代の変わり目の逸材

今年には明治維新150年に当たり、様々な明治維新論が出ることでしよう。どの説がいいとか、悪いとかと言う前に、出来るだけたくさん

の明治維新の出来事に接しておくことが肝要ではないでしょうか。そこで再び、司馬遼太郎の歴史小説に触れさせてください。作品は越後長岡藩家老の河井継之助（かわい・つぎのすけ）を描いた『峠』（新潮社、前後編）です。

昨年10月に紹介した長州藩の軍略家大村益次郎を取り上げた『花神』と対照の作品です。西欧列強に脅威を感じ軍政改革に乗り出した益次郎に対し、少し遅れて藩の改革からスタートした長岡藩の継之助は、益次郎の長州藩と真っ向から対決する事になります。封建制の変革に目覚めたものの、真反対の「時代の運命」が待っていたのです。

「峠」では、継之助が藩に何度も江戸・諸国遊学を願い出る場面から始まります。家老は根負けし、つぶやきます。「継之助めは物事を考えすぎるのであろう。自分が人間に生

まれたことさえ、まるでそれが自分の責任であるように血相をかえて考えている。そういう根本義を、武士

願い出ているのです。「学問の講義は要りません。先生の日常になさることを学びたいのです」と。方谷は、莫大な借財の藩財政を立て直したことで、広く知られていくのです。ひと月半、方谷と起居を共にします。今も庄原の東隣、新見

また読んでみたい本②③

青年たちに

音谷 健郎



【峠 表紙】

古今東西の文学にはたくさんの名作があります。そんな名作の中から筆者の心に残る作品を今の青年たちにも読んでもらいたいと思います。毎月1冊ずつ紹介しています。

第23回は、司馬遼太郎の『峠』です。もし興味を持ったらぜひ読んでみてください。

筆者紹介：1944年、旧・庄原町生まれ。新聞記者、大学講師を経て現在、庄原市東本町在住。大阪文学学校講師

は考えてはならぬのだ……。」と。

継之助は考え抜いたあげく、思い切った行動に出て変人扱いされます。

しかも態度が大きいのです。江戸で何人かの師についた後の1859年（安政の大獄のころ）、なんと備中松山藩を訪ね、儒者山田方谷に入門を

市の大佐に「方谷庵」として寓居が残され、「山田方谷記念館」があります。

ひと月半滞在した後、長崎へと向かう別れの時、継之助は土手の上で土下座して謝意を表しています。一生に一度の土下座でした。

継之助は、江戸・吉原の遊郭に通ったり、各地に遊学したりと奔放な若き日を過ごした末、越後に帰藩します。司馬遼太郎は、数々のエピソードを仕立てて、寄り道談義に花を咲かせます。だが、この談義こそ、幕末の実相をかみ砕いて伝えているように思えて、痛快です。

1865年の郡奉行就任をきっかけに藩政の改革に取り組み、農政や兵制の改革に着手。それは、藩といふより、あたかも「戦争をしない」国家へと、変革して行くところが見所です。しかし、時はすでに遅く、67年には徳川慶喜の大政奉還で王政復古のご時世となるのです。長州を主力とした戊辰戦争に巻き込まれます。「倒幕の正当な理由はあるのか」と新政府軍と対決します。

司馬遼太郎は「幕末に完成した武士という人間像は、日本人がうみだした、多少奇形であるにしてもその結晶のみごとさにおいて人間の芸術品とまでいえるように思える」として、継之助にその典型を見るのです。

ほとんど無名だった継之助を明治維新の舞台上で登場させ、「武士の華」として造形しました。黒船来航以来、否応なしに世界史に組み込まれる世相が活写され、魅了させられます。

てくるのです。ちょうどアンデルセンの「みにくいアヒルの子」ではありませんが、思いがけないことがよくあります。

虫は何も人間の好みのためにあるのではなく、それぞれ、生命をもった大切な生き物です。人間の好みを押しつけるのは、余りにも人間の身勝手過ぎることです。ハチは刺す虫、ガはりん粉がついて気持ちが悪いと きめつけるのも身勝手な話です。刺すハチは、ハチのごく一部、それも人をハチの方から攻撃してくるとい うことはありませんし、りん粉でかぶれるのもドクガ科の一部です。だからどの虫とも親しくして欲しいものです。

思いがけない発見も

広島県山県郡豊平東小学校五年(当時)の吉原順君は自分の家の明りに飛んでくるガを集めて調べていました。吉原君の集めたガの中にムラサキシタバという珍しいガがいたのです。ムラサキシタバは寒い北国のがですが、暖かい西南日本にもいることが吉原君の発見でわかったのです。この標本は大阪市立自然史博物館に寄贈され、コン虫研究にずいぶん役に立っているのです。コン虫

の種類はとても種類が多く、専門のコン虫学者だけでは、とうてい調べ尽くすことは不可能です。だから、専門のコン虫学者がびっくりするよ うな発見を誰でもすることができ、研究の喜びを体験することができ 分野なのです。

どんな虫も愛そう

どうか、虫を姿や形、色やにおい など人間の身勝手な好みで区別せず、どの虫も好きになって欲しい のですし、夏休みの間、思い切り虫を追っかけて欲しいものです。

虫をただ捕え、殺して捨ててしま うのは大変よくないことです。捕えた虫を自然を知る手がかりとし、勉強に役立てて、初めて虫の生命を大切に してやったこととなります。採集した虫はきちんときれいな標本に 仕上げ、これからの勉強に役立てま しょう。図鑑と首っぴきで名前を調 べることも楽しいことです。虫の種 類は多いので、調べきれません。そ んなときは専門の人にお願いで調 べてもらい正しい名前を知りましょ う。

夏休みを虫を通して自然を知る、 自然に親しむ機会としてみようでは ありませんか。

寺遊自感「東日本大震災復興祈願法要」

佐々木リョウ LIVE

■ 3月3日(土) 入場無料

■ 会場：萬福寺(庄原市是松町 227)

Tel 0824-72-0292

12:00 カレー「キナリ」 チーズ「ふくふく牧場」

額縁「森原明良」 喫茶「萬福寺」

14:00 座禅と法要

松本みのりトークタイム

15:00 佐々木リョウライブ

プロフィール

三次市出身のシンガーソングライター

RCC 中国放送

「佐々木リョウのバリアじゃんラジオ」

(毎週日曜日 22:00 ~ 22:29) 絶賛放送中!

※会場の募金箱の浄財は、気仙沼「青龍寺」を通して、地域の為に使っていただきます。

石巻市雄勝町 天雄寺
平成29年3月11日 七回忌合同供養
RCC 横山雄二氏と共に



(うん?)

何やら読経のような声が聞こえてくる。読んでいる本を机に伏せて、店頭の方に視線をやると、網代傘に黒染めの僧衣、度の強い黒縁の眼鏡をかけた雲水が立っている。外は粉雪が舞っていた。

(このお経は……)

わたしは苦笑を浮かべた。

「中で暖まっていきませんか」

自動扉を開けて、雲水に声をかけた。読経が止んで、初めてわたしに気づいたかのように、雲水が顔を上げた。

「さあ、中にどうぞ」

再度、促すと、頬のこけた顔に笑みが浮かんだ。

「かたじけない」

網代傘を外すと、胡麻塩の坊主頭が現れた。石油ストーブの前に案内すると、両手をかざして暖をとった。眼鏡を外して、僧衣の袖で曇りを拭う。あらためて眼鏡をかけ直して、店内を見渡した。

「古本屋をやっておられるのですな」

まっしろなヤギ髭に、しずくが垂れている。

「売れますかな?」

唐突に訊かれた。

「田舎町ですからね。道楽でやって

るから、『どら書房』です」

雲水が小さく頷いた。

「わたしも熊本の方で古本屋をやっていました。仕入れるお金がないので、友人からいらなくなった本をもらってきて並べていました。だから店名は『雅楽多』です」

淡々とした口調だった。

「売れませんか?」

売れないでしょう、という半ば同

出たんです。いちばん売れたのは明治天皇の肖像画で、小学校や中学校

が買ってくれました」

当時を懐かしむような口調だった。

「お茶でも入れましょう」

場を外そうとしたわたしに、雲水

が声をかけた。

「その前に、ご仏壇があれば、ご挨拶をさせていただけませんか」

わたしは苦笑を浮かべて頷いた。

湯の本来の意味は「智慧のわきいず

るお湯」だと、法事のあとの宴席で

住職さんから聞いたことがある。智

恵がわきすぎたのか、顔が赤く腫れあがっていた。

「いただきます」

まるで白湯のように、湯呑の中の

酒を飲みほした。わたしはすぐに、チロリのお酒で湯呑を満たした。

「ほう、これは蒟蒻ですな」

雲水が箸を手にした。冷蔵庫に入っていたものを適当に並べていた。蒟蒻の刺身を、酢味噌を使わずにそのまま口に入れた。

「うまい!」

わたしは、満足そうにうなずいた。店の常連客からもらった、自家製の蒟蒻だった。

「これは赤豆腐ですか」

仏教徒の隠語で、マグロのことである。マグロだと殺生になるが、豆腐だと精進料理として食べることができる。「少し変わった材料を使った赤豆腐です」

マグロではなくワニ、サメの刺身だ。山に囲まれたこの地方では、新鮮な魚を食べることができなかった。昔から保存のきくサメ肉が食べられてきた。今でもスーパールの鮮

「蒟蒻問答」

あきふゆひこ
亜木冬彦

現代御伽草子 ②1

※県北の歴史や風物を題材としたファンタジー小説です。

情が入っている。どういうわけか、わたしはこの初老の雲水のことをよく知っているらしい。

「まったく売れません。古本とは別に、

偉人の肖像画や絵画の複製、絵葉書、

ブロマイド、額縁なんかを問屋から

仕入れて店に並べたら、少しは客も

来るようになったんですがね。それ

だけじゃ妻子を養えないので、店番を女房にまかせて、わたしは行商に

「般若湯です」

そう言つて、チロリで温めた日本

酒を、湯呑茶碗にたっぷり注いだ。

この雲水が無類の酒好きだということ

とを、わたしはよく知っている。

般若湯は仏教徒が使う酒の隠語で、

薬として飲むのなら、少しぐらいは

不飲酒戒の禁を破ってもいいだろうという思いが込められている。般若



魚コーナーで普通に売られている。「もちもちとして、実に味わい深い」

そうしてまた湯呑の酒をぐびり。いくら飲んでも、顔色は変わらない。「やはりご主人は、いろは経に気づいてましたか」

雲水が苦笑を浮かべた。「蒟蒻問答です」

わたしが答えた。落語に「蒟蒻問答」という演目がある。蒟蒻屋の六兵衛が、行き倒れになっていた道楽者の八五郎を、無住寺の和尚に押し込むという話なのだが、お経なんか

読めないと尻込みする八五郎を、「いろはにほへとでもいいんだよ」と

言って六兵衛は、いろは経を唱えてみせる。その見事な読経が、見せ場の一つになっている。般若湯も赤豆腐も、その落語の中に出てくる。「わたしも修行が足りませんな。なかなか喜捨をいただけないと、つい心までさもしくなってしまう」

胡麻塩頭を手で撫でると、邪気が消えて、子どものような笑顔になった。根が真面目なのだろう。いろは経では申し訳ないと思っ、仏壇に焼香して、般若心経を懇ろに唱えてくれた。

「これからどちらに向かわれるのですか？」

雲水が首をかしげた。「目的地はないのです。歩いて歩いて、ただ歩くだけです。わたしの体を流れる悪しき血は、立ち止まるとすぐに腐ってしまいます」

濁れる水の流れつつ澄む。この男の呪われた半生を思った。山口県防府の大地主の家に生まれたが、父親の放蕩で家産は傾き、母親は古井戸に身を投げて自殺。結局、実家は没落して一家は離散、行き場を失った弟は、首をくくって死んでいる。自らも酒乱で自殺未遂を繰り返したあ

げく、妻子を捨てて出家、こうして放浪の旅を続けている。

「古本屋はどうですか？」

雲水が尋ねた。

「集まってくる本に圧倒されるばかりです。自分では読書家だと自惚れていたのですが、井の中の蛙でした。初めて出会う知らない作家ばかりです。どうしてもっと若いときに本を読んでもおかなかったのか、後悔するばかりです。これからはがんばっても、どれだけ読むことができるか……」

雲水が頷いた。「あなたは、本の中を旅しているのじゃないか、やさしい声だった。いたわるような、やさしい声だった。」

いつの間にか寝入ってしまったようだ。外は吹雪になっている。

(もう少し一緒に飲みたかった……) 夢の中の出来事を想った。机の上には読みかけの「種田山頭火の死生」(渡辺利男著)が伏せてある。(うん?)

ガラスの商品ケースの上に、一枚のメモ用紙が置かれている。「わけいってもわけいっても本の山」、墨黒鮮やかに、流れるような文字で、そう書かれていた。

まちの古本屋さん どら書房

古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

- ・ 無料本、百円本、50円本などのコーナー。無料の漫画ルームもあります。
 - ・ 地元のポストカード、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。
- ※九日市の開催日は定休日でも開店します。

- 庄原市中本町 2-1-10
- 定休日：毎週月・火曜日
- 営業時間：9:30~19:00
- TEL: 090(9913)3052

※広島銀行庄原支店の手前(三次側から)※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

< 広告料 1/4 ページ 1回 2,000円 半年間 9,000円 1年間 1,5000円 >



どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

「漂泊の俳人井上井月記」

中井三好 著 彩流社

井月はせいげつと読む。本名は井上克之進、かつては長岡藩士で、佐久間象山のもとで西洋学を学んだ俊英である。開国論を唱えて藩の門閥と対立、出奔して一所不在の俳諧世界に生きる。乞食井月と子どもたちにかかわれながら、芭蕉の「侘びつくしたるわび人」を実践、漂泊の中で句作する。

「日本文学史上与謝蕪村以来の大発見」、井月の俳諧や書、その生き様を知った芥川龍之介は、そう言って歓喜したという。種田山頭火は井月の境涯に私淑して、南信濃にある井月の墓を訪れている。「落栗の座を定めるや窪溜り」、飄々と澄んだ井月の句は、山頭火にも多大な影響を与えている。



「さよならドビュッシー」

中山七里 著 宝島社

全身に大火傷を負った16歳の少女が、新進気鋭のイケメンピアニストの特訓に耐えて、コンクールでの優勝を目指すというピアノ版のスポ根少女漫画の世界。最愛の祖父と仲の良い従妹を火事で失い、火傷の後遺症で声もガラガラ、移植した皮膚がひきつって、長時間ピアノを弾くこともできない。

数々のハンデを克服しての演奏シーンは圧巻で、それだけでも読み応え十分なのだが、この小説は「このミステリーがすごい!」大賞受賞作品。彼女の身の回りで不可解な事件や殺人事件が起きる。容疑者リストはごくわずか。これで事件が解決するのかと訝っていたら、大どんでん返しが用意されていた。



「とんでもスキルで異世界放浪メシ」

江口連 著 オーバーラップ

インターネットの「小説家になろう」というサイトの人気投票で、年間1位になったWeb小説を出版。選考委員や編集者ではなく、一般の読者が選んだというのが重要!

現代社会から剣と魔法の異世界に「勇者」として召喚された向田剛志は、実は単なる巻き込まれで、勇者としての実力がないことが判明、一人城の外に出る。唯一の固有スキル「ネットスーパー」で現代社会の食品や食材を取り寄せて食事を作るのだが、その味に釣られてとんでもないメンバーが集まって来る。



ファンタジーゲームと簡単料理のレシピ本が合体、他の本に浮気しないで一気に読了したのは久しぶり。第4巻まで刊行されている。

どら書房 << 貸本屋システム >>

- ・ 店内で販売した本は、どら紙幣（店内専用通貨）であれば半額、現金であれば3割で買い戻します。※破損や汚れがあれば値引
- ・ 書籍購入⇒読了⇒どら紙幣と交換⇒新たな書籍購入、貸本のような感覚でご利用ください。

どらくる俳壇

初鴉恐れ多くて叱られず

近藤 昌平

妻の知恵一言浴えておでん煮る

原博己

新春のひと日をながく暮らしけり

片岡 正人

書初めが天まであがりとんど焼き

隆愚

現世^{うつつよ}や過去と未来の薄氷

赤川 冬人

投稿&寄稿

「キリンの首」

M・A

本誌の去年の十一月号「里山で海洋探検」を興味深く読んだ。比和自然科学博物館で、化石から復元した実物大の古代クジラの模型を見学したが、あんな巨大な生物が悠然と回遊していたかと、建物の外に出て思わず空を見上げてしまった。ここが海の底であったのなら、それこそクジラは空飛ぶ飛行船のようなものだ

ろう。

化石は雄弁に、昔のことを語ってくれる。どんな容貌をしていたのか、今は分析技術が進歩して、その生態まで推測できるようになった。しかし、どうにも理解不能の不可解な動物がいる、らしい。キリンである。幻獣の麒麟ではなく、動物園にいる普通のキリン。

どうしてキリンの首は長いのですか？ 高い木の葉っぱが食べられるようになるため、たぶん子どもでも

※投句を歓迎します。

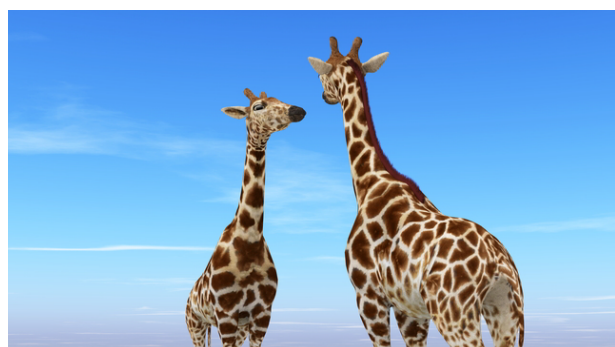
そう答える。ダーウィンの進化論でいけば、首の長いキリンの方が生存競争には有利で、そのためにキリンの首はどんどん伸びていった……、正論なのだがその証拠がないのである。

キリンの祖先は D. レックスという草食獣で、首は長くなかった。現代のオカピに似た体形をしていたと推測されている。オカピはシマウマに似ているが、遺伝子からキリンの仲間であることが明らかになった。その首の長くないキリンの祖先が進化して、現代のキリンの姿になった、わけではないらしい。そうであるなら、首が長くなる過程のキリンの化石が発見されるはずだ。首の長さが半分のキリン、3分の1のキリンが存在したはずだが、その化石が未だに見つかっていない。

進化論では説明できないので、今度はいよいよ突然変異説が登場した。首が徐々に伸びたのではなく、突然変異によって首の長い異常種が誕生、それが生き残った。私が調べた限りでは、どうもこちらの推論の方が優勢らしいのだが、動物学者はそんな異常種が生き残れるはずはないと反論している。あの長い首を支えるのはそれなりの骨格、筋力

が必要で、そんな生物学的に未熟な個体が成獣になるまで生き延びて、かつ繁殖する確率は限りなくゼロに近い……、これも説得力がある。

昔々、D. レックスの親子が森の中を歩いていた。地上の草は食べつくされて、母親はうらめしそうに葉が生い茂る高い木の梢を見上げていた。子どもにねだられても、空腹で乳が出ない。同情した神様は、母親の首を両手でつかむとグイと引っ張った。それで首が伸びた母親は、高い梢の葉をモシャモシャ食べて、子供にたらふく乳を飲ませることができたとき、メダタシメダタシ。これは私の妄想、ロマンである。



「幻の神福寺」じんぶくじ 第二回 文責・寺岡隆行

「芸藩通志」にある「廃神福寺」の名称は、中世以後の「神福寺」という寺院であったが、「芸藩通志」編集当時は、既に現存していなかったため、遺跡の名称として「廃神福寺」となっているものです。

2. 三次市にある広島県立歴史民俗資料館の所蔵品として、「伝神福寺の複弁蓮華文軒丸瓦」と「伝神福寺の重弧文軒平瓦」が展示してあります。ここでは、「廃神福寺」ではなくて「伝神福寺」となっています。「神福寺」があったと伝えられているという意味だそうです。

また、庄原市の田園文化センターの資料館には、「神福寺廃寺跡の平瓦（布目瓦）二片が展示してあります。現在の神社の境内や付近の田畑から布目や格子目の文様がついた瓦が多数出てくることから、その存在が明らかになりました。

軒丸瓦は三個見つかっていますが、歴史学者らしい人がやって来て譲っ

て欲しいと言われて、役に立つなら差し上げますと渡してしまい、宮内には現在、一つも残っていません。三個のうちの一つが三次市の歴史民俗資料館にあると思われまます。神社周辺を発掘すれば、まだまだ出土すると思われまます。

この軒丸瓦は神福寺以外の三次市の寺町廃寺の軒丸瓦に見られる蓮弁の中に子葉を持たない素弁蓮華文軒丸瓦と、蓮弁の中に二枚並んだ子葉を持つ複弁蓮華文軒丸瓦に酷似したものがありませんが、この神福寺跡では、このほかに備後地域では類例のない軒丸瓦が出土しています。

それは、内側に複弁蓮華文を持ちながら、その外側に、連続する山型の文様（線鋸歯文）をめぐらせ、縁を高く盛り上げたものです。また、下端には三角形をした小さな突起も付いていません。寺町廃寺の軒丸瓦には、水切りと違って下端に三角形の小さな突起が付いています。

さらに、寺町廃寺を中心とした一

連の軒丸瓦には、文様をもつ軒平瓦は組み合いませんが、神福寺の軒丸瓦には窪んだ線を二重に重ねた重弧文軒平瓦が組み合う事が考えられます。この軒瓦は、七世紀後半の素弁蓮華文軒丸瓦と七世紀末の複弁蓮華文軒丸瓦の間に利用されたものであります。

同じ備後北部地域の寺院でも、その造営について、別な方向からの検討が必要だとの説を持つ学者もいます。

3. 現宮内八幡神社の境内に神福寺の建物の柱の台になる花崗岩らしい礎石が、確認できるものだけで、十七個あります。この礎石は、自然石の平らな上面に、方形の柱座を加工

してあります。

三次市の寺町廃寺には、方形の柱座と円形の柱座があります。方形の柱座のものは、塔と金堂に使用され、円形の柱座のものは、講堂に使われていた事が考えられています。

伽藍建物の建設順序は、一般的に塔や金堂が先行し、講堂は後に建てられますが、この神福寺ではどうであったでしょうか。方形の柱座の一边の長さは六〇センチメートルですから、柱の大きさが想像されます。

礎石は現在、後世に建て替えられたであろう八幡神社や脇社の礎石として利用されているものが多数あり、記念碑の台になっていたり、御旅所の御神輿を置く台になっていたり、加工して手水鉢に利用されています。



でんじんぶくじ ふくべんれんげもんのきまるがわら
伝神福寺の複弁蓮華文軒丸瓦
(広島県立歴史民俗資料館所蔵)

どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

一 硬式テニス参加者募集 一

MTEC (Miyoshi Tennis Enjoy Club)

場所：三次運動公園の屋内&屋外コート

- ・火曜日 (9:30 ~ 12:00)
- ・水曜日 (9:30 ~ 12:00)
- ・土曜日 (10:00 ~ 12:00)

連絡先：中川 (☎080-5610-2376)

陶芸 教室

洲澤陶芸教室 (電動ロクロほか成形全般)

- ・県大前教室 (0824-72-0686) 月謝 2,000 円
金曜日 (毎週) 午後 1 時~4 時 30 分
 - ・敷信自治センター教室 (0824-72-0571) 月謝 1,000 円
木曜日 (第二、第四) 午後 1 時~4 時 30 分
 - ・庄原小学校前教室 (0824-72-1074) 月謝 1,000 円 (月2回)
月曜日~水曜日 (希望する日) 午後 1 時~4 時 30 分
- ※詳しくはお電話ください。0824-72-1074 (夜間を希望)
洲澤悦二 (庄原市西本町 2-11-19)

《情報&原稿を募集します!!》

- 仲間募集
- 教室&講座案内
- イベント情報
- あなたの大切な本の紹介
- ボランティア・ライター (現地記者) 募集!

※応募先はどら書房・赤川まで。
掲載は無料です。

どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載して
いるので、ダウンロードして
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>

「僕らは みんな 生きている」(絵画展)

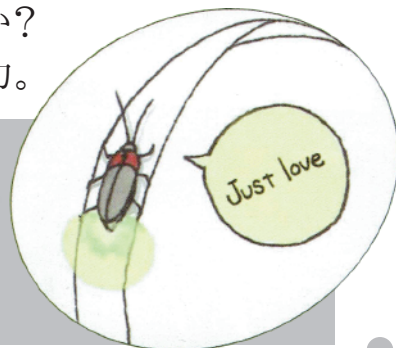
身近にいる昆虫たちのメッセージに耳を傾けてみませんか?
廿日市市在住の中嶋将史さんのほのぼのとした絵が魅力。

会場：庄原市立比和自然科学博物館地学分館

9:00~17:00 (0824-85-3005)

期間：平成30年2月26日まで

入館料：300円(中学生以下無料)



編集後記

◇これを書いてい
る月の月末は、連日のよ
うに雪が降っていま
す。今年の大寒は一月
二十日で、一年でいち
ばん寒い時期と言われ
ていますが、実際の記
録では、一月二十六日
から二月四日まで最低気
温を更新することが多く、まさ
に今の時期です。

◇巻頭に登場していただいた
「香面堂」さん、「どら書房」
と同じく個人商店ですので、
頑張っていたいただきたいです
ね。わたしも消しゴムはんこ
が欲しくなって、「どら書房」
のはんこを依頼しました。と
ても楽しみです。

◇二月は逃げる、三月は去る、
早く春がきてほしいと思う反
面、編集作業のことを思うと、
日の少ない二月は大変です。

発行：どら書房

〒727-0012

庄原市中本町 2-1-10

☎090(9913)3052(赤川)

e-mail: touzin@sannet.ne.jp

年間購読料：2,000円(郵送費込)

誌面デザイン：ROUTE183

協賛：九日市愛好会

第205回

「庄原九日市」

平成30年

2月9日 (金) 9:00~13:00

庄原九日市とは？

天正年間（440年前）に物々交換で始まった市（いち）。
昭和年代の戦争で途絶えていた市を、市街地活性化ボランティア活動として空き店舗などを活用し2001年に復活。

TOPICS

★市民ギャラリー「アート多愛夢」

→読書感想画作品展

2月9日（金）～10日（土）10時～16時

庄原子ども美術館絵画教室作品展

★どら書房

→月曜日と火曜日はお休み

★風籠

→九日市スペシャル！餃子200円！

★楽笑座で「うた声喫茶」開催中、まかない食堂は野草を食べよう会です。

★

出店配置図



1 お休み

2 ギャラリー三村

3 昭助
とらぢ
二八そば加工所
アーミッシュ
さだっさ
リトルマーメイド
健康企画グループ

4 お休み

5 ちくちくはうす玉手箱
工房アム

6 やまのおみやげや
めだかの学校
ROOM OF KEIKO

7 農楽会

8 タツミ矢

9 お休み

10 克國水産

11 お休み

12 お休み

13 山本水産
くんえん工房 香豚
ハナピラタケ広島

14 開盛社

15 宮川屋

砂田海産

16 お福

出店申込みは、【毎月20日締切】コンパネ1枚スペース1,000円～ 九日市愛好会事務局
〒727-0013 庄原市西本町2-1-10 楽笑座内

ホームページ
<http://www.kunchi-ichi.jp>

